

実践報告 (Report)

保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び(学びの主体性)の促進を目指した授業の試みについて(3)

——「手書き A3 課題」を授業に 3 年継続して活用することの意義とその限界——

An Attempt in Class to Enhance Activeness in Learning of the Students in the Training course of Nursery and Elementary School Teacher (3): The Meaning and Limitation on Introducing “Handmade A3 Task” for Summary of the Lesson Successively for Three Years

服部 次郎*
HATTORI, Jiro*

キーワード：学びの主体性，調べ学習（手書き A3 課題），発表体験（主体的学び）

Key words : Activeness in Learning, Preparatory Task (Handmade A3Task), Experiences of Presentation

1. 研究の背景と目的

筆者は、IT 機器が加速的に多用される現代において、便利さの故に学生の潜在的能力がそこなわれることがないように、そのひとつの学習手段として学生自らが手書きにより課題に取り組む学習法の効果を探求している。授業において教師から知識の伝達を受ける受動的な学習，あるいは近年注目され、今後もその効果が大きい期待されている ICT 教育に依存しすぎることは、移り変わりの激しい現代の社会状況の中で主体的に問題解決ができる人材の育成を困難にすると考えるからである。つい最近も、「大学生，進む『受け身』志向」（ベネッセ教育総研調べ）という記事（2017年 8 月 10 日：日経新聞）には、「学習の方法を『授業で指導を受ける』と『自分で工夫する』のどちらがよいかを尋ねると，51%が前者を選んだ。この数字は2008年から 11 ポイント増えた」とあり，「主体的に学ぶこと」の難しさとその重要性をあらためて感じている。

筆者は，授業等において初めに学生に課題を与え，次に調べ学習をさせた後，その成果を A3 用紙 1 枚（表裏利用）に手書きでまとめさせるという学習法（以下 A3 課題と呼ぶ）を実践してきている（服部 2014a, b；服部 2015）。この実践により，筆者は学生の「学びの主体性」を育てることができたと判断している（服部 2014a）。

「学びの主体性」については，2012 年 8 月の中教審答申「大学教育の質的転換に向けて」においても，「生涯にわたって学び続ける力，主体的に考える力を持った人材は，学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。（中略）教員と学生が意思疎通を図りつつ，一緒になって切磋琢磨し，相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り，学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学修への転換が必要である。（中略）学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ，生涯学び続ける

力を修得できるのである。」(p. 9)と述べられている。

学習法の効果の検証には、効果の持続性を確認することが大切である。A3課題は初年次教育として実施しているが、その後もA3課題を継続していくと初年時より学びの質が高まる可能性が示唆された(服部 2015)。しかしながら、学生にA3課題についての効果を尋ねると、学年が進行するにつれて、下級生に比べて「どちらでもない」という反応が目立ってきた。この原因について検討する中で、「主体的学び」を支えるための要素のひとつに、「選択」できることがあるのではと考えた。エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト(1999)は、「内発的動機づけを高める要因とはどのようなものか」(p. 43)を考えるために実験を行っている。その結果、「ポイントは、意味のある選択が自発性を育む」(p. 45)としている。そこで、今回の研究では、A3課題に関して学生が選択をできる機会を設けることで、自発性が高まると仮定した。その検証(特に問6-1、問6-2)が本研究の主目的である。

2. 研究の方法

過去2年間の実践を踏まえアンケート用紙(資料1:改訂版)を作成し、筆者の授業「障害児保育」(3年生前期科目)を受講する保初3年生の学生98名(用紙提出者は89名)を対象に実施し、仮説の妥当性を検討した。

アンケートの各設問については、5つの選択肢を設け、5段階評価を採用し、選択肢5には5点、4には4点、3には3点、2には2点、1には1点を付与した。今回の改訂版では、3つの設問において以下のように変更した。

- (1) 1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後に事後学習(発表後の成果のまとめの作業)にも役に立つ。
- (6-1) 今回のA3課題においては1～2年次とは異なる選択制を導入したが、これによってA3課題に取り組みやすくなる。
- (6-2) 課題の対象の選択制は、「主体的な学び」の促進に役立つ。

「障害児保育」におけるA3課題の活用状況について簡単に説明する。学生は、6～7人で1グループを構成(計7グループ)し、共同作業を行うことで、学びの内容を広め、かつ深めることが期待されている。鷲尾(2012)も、「グループ学習によって、学生同士の関わり合いの中から、学生の主体性や気づきが起こり、テーマへの興味が芽生え、活動への意欲の高まり、自ら学習を振り返り、テーマに関する知識を深めて、学習終了後の達成感とその分野への興味関心が高まり、次なる学習につながっていく。」(p. 55)と共同作業の効果に言及している。学生に課すA3課題は、障害児理解のために使用した教材「光とともに～自閉症児を抱えて～」(株式会社バップ)の

鑑賞のまとめか、教科書のまとめかを学生に選択させた。教材鑑賞のまとめの場合には、鑑賞をしたあとグループで討論をした上で発表する。その後、各自で教材の内容をA3用紙の表側にまとめ、裏側にはその内容等の考察をする。教科書の場合は授業で使用する教科書（『実践事例に基づく障害児保育』保育出版社）の内容を検討し、要点をまとめた上で、クラスで発表する。発表を聞く側は発表された内容のポイントをまとめるという作業をすることとしている。すべての発表が終わったところで学生各自が1枚のA3用紙を活用して、表側には自分たちの発表内容を、裏側には他グループの発表内容および学んだことをまとめるという課題を課している。その際に、まとめ、発表、質疑応答などはグループで対応することとしている。この科目の授業回数は15回である。

3. 結果

以下にアンケート調査結果を設問ごとに示す（アンケートは98名中89名から回答を得た）。

問1. 年次から活用しているA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後に事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役に立ったと思いますか。

5 とても 役立った	4 ある程度 役立った	3 どちらとも いえない	2 あまり 役立たなかった	1 まったく 役立たなかった
9名 (10%)	41名 (46%)	34名 (38%)	5名 (6%)	0名 (0%)

A3課題が「役立った」とする学生は56%いる一方で、「役立つ」とは考えていない学生が44%存在した。5段階評価で、平均値は3.6であった。

問2. A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか。

5 とても つながった	4 ある程度 つながった	3 どちらとも いえない	2 あまりつながら なかった	1 まったくつながら なかった
8名 (9%)	31名 (35%)	45名 (51%)	4名 (4%)	1名 (1%)

この設問に対しては、「主体的な学びにつながった」とする学生は44%、「つながったとはいえない」とする学生が56%という結果であり、5段階評価で、平均値は3.5であった。

問3. 今回の「手書き A3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
4名 (4%)	41名 (46%)	37名 (42%)	6名 (7%)	1名 (1%)

「A3課題」作成の際に、手書きで課題を作成することが「学生の主体的な学び」を促進するとした学生は50%、一方「効果があったとはいえない」とする学生が50%という結果で、5段階評価で、平均値は3.5であった。

問4. 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
6名 (7%)	34名 (38%)	42名 (47%)	4名 (4%)	3名 (3%)

「主体的な学びを促進する効果があった」とする学生は45%、「効果があったとはいえない」という学生が54%で、5段階評価で、平均値は3.4であった。

問5. 3年目のこの授業においても、討論・まとめ・発表をして最後に個人として「手書き A3課題」に取り組んでももらいました。このように継続的に取り組んできたことは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
11名 (12%)	35名 (39%)	38名 (43%)	4名 (4%)	1名 (1%)

「学生の主体的な学びを促進するという点で効果があった」とする学生は51%、「効果があったとはいえない」とする学生が48%という結果で、5段階評価で、平均値は3.6であった。

問6-1. 今回の A3課題においては、1～2年次とは異なる選択制を導入しました。具体的には、この科目では課題の対象を発表内容のまとめにするか、教材「光とと

もに」にするか、皆さんに選んでいただくこととしました。これによって A3課題に取り組みやすくなりましたか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
24名 (27%)	36名 (40%)	27名 (30%)	1名 (1%)	1名 (1%)

「A3課題に取り組みやすくなった」とする学生は67%、「取り組みやすくなったとはいえない」という学生が32%で、5段階評価で、平均値は3.9であった。

問6-2. 課題の対象の選択制は、「主体的な学び」の促進に役立ちましたか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
10名 (11%)	27名 (30%)	50名 (56%)	1名 (1%)	1名 (1%)

「選択制ある A3課題は主体的学びに役立った」とする学生は41%、「役立ったとはいえない」とした学生が58%で、5段階評価で、平均値は3.5であった。

4. 考察

仮説 (1)～(6-2) のすべてについて、統計的結果からパラツキはあるが、平均値で3.4以上を示していた。しかし、「どちらともいえない」という回答を消極的な否定表現と解釈すると、多くの問（問2、問3、問4、問6-2）において、否定的な回答が目立った。

今回、特に注目した問6-1、問6-2に関してみると、問6-1では肯定的回答が多く認められ、67%の学生が「選択制を導入したことで A3課題に取り組みやすくなった」と回答し、5段階評価で、平均値も3.9あり、「選択制の導入」の意義はある程度、確認できたといえる。学生の記述をみてみる。「選択制にすることで、より選んだ課題について積極的に取り組もうという意欲ができました。」や「選択することによって自主的なやる気がでる。」という意見の他に、「選べるという点から、課題をやらされているという気持ちが悪くなった。」「選択肢がある方が、自分で選んだという意識が生まれ、大変だから嫌と思っても、強制されているという感じが少し薄れるから。」という記述に注目したい。これらの記述は、デシ (1999) も述べている「ポイントは、意味のある選択が自発性を育むという点にある。人は、自ら選択することによって、自分自身の行為の根拠を十分に意味付けることができ、納得して活動に取り組むことができる。同時に、自由意志の感覚を感じることができ、疎外感が減少する。し

かも、もし選択の機会が提供されるならば、人々は自分たちが一人の人間として扱われていると感じる。このように、選択の機会を提供することによって、問題をうまく解決することができるのである。」(p. 45) という主張に一致するものであると考えられる。このように、今回の研究の中心テーマである選択制について、問6-1で「選択制の採用は A3 課題への取り組みをしやすいものとした」ということが、学生の記述と先の統計的結果から明らかになったと考える。

しかし問6-2の「課題の対象の選択制は、『主体的な学び』の促進に役立ちましたか。」については、「(人は誰でも) 得意・不得意があるため、どちらか自分のやりやすい方を行うことで主体的な学びの促進につながったと思います。」「どちらか自分のやりたいテーマをえらべるということでより意欲的に課題に取り組むことができた。」などの記述にみられるように、主体的な学びの促進に役立っていると記述する学生がいるものの、先の統計的結果が示すように「どちらともいえない」という回答が全体の 56% と多く、この点については否定的な結果が出ている。問6-2も含めて、問2, 3, 4の結果から、3年生では A3 課題を「主体的な学びの方法」と考えていない学生が 50% 以上いることになる。特に学年が進むにつれて、そのような傾向が強まったことは、A3 課題の限界を示したともいえる。

限界を示す回答ともいえる「どちらともいえない」という反応の原因に関しては、その理由まで尋ねていないため確かなことはいいがたい。しかし学生の他の設問に対する自由記述などから、原因と思われるものをいくつかあげることができる。たとえば、「選択制を導入したことで A3 課題に取り組みやすくなったか」の設問に関連して述べられている意見が参考になる。ここには、「3 年生前期は授業が多いので、選択をして 1 枚の提出なのは良かった。」「他教科の課題で小学校免許をとっている人がとても忙しい中、自分がやりやすい方を選ぶことができた。」「光くんだと絵をたくさん描かなければならないが、私は絵が苦手なのでよかった。」「選べるという点から、課題をやらされているという気持ちがなくなった。」などの記述から推測すると、「A3 課題は、授業が多い、忙しい時期には負担になる。」「絵を描くことが苦手である学生には負担である。」「課題をさせられる」などといった具合に、学生に義務感や負担感を抱かせた可能性があると考えられる。その結果、「主体的な学び」につながるかどうかについては、「どちらともいえない」という回答を選ぶ可能性が高くなったと推測できる。そのような中で、「選択制の導入」は学生の負担感を多少とも軽減することに役立ったと考えられる以上、A3 課題が、「主体的な学び」を促進するかどうかという点については今回のアンケート調査の結果、限界があることが明らかになった。

次に、A3 課題に取り組むことの意義について設問順に考察する。まずは問1と問2に対する学生の記述から明らかになった A3 課題の意義を、次の3点にまとめておく。

第1は、「深い学び」につながることである。例えば、「限られたスペースに要点を自分なりに考えることでより深い学びにつながった。」という学生の記述があるが、このような「深い学び」につながるという記述が他にも多く見られた（資料2参照）。

「深い学び」につながった要因のひとつは、A3用紙という「限られたスペース」にまとめることにありと考える。限られたスペースに内容を自由に取捨選択しつつ凝縮するため「自分なりに考えてまとめる」という作業が必要となり、その結果として「より深い学びにつながる」と考えられる。エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト（1999）に「実存主義の哲学者ジャンポール・サルトルによると、自由であるとはその人の制限を十分に受け入れることであるという。自由は、真の制限の中に存する——それは他者によって恣意的に課せられる制限ではなく（中略）真の制限である。」（p. 272）とあるが、記述スペースがA3用紙分（表裏）しかないという制限、この制限を学生自身が「意味ある制限」と考える場合には、A3用紙が「学びを深める道具」になると考えられる。もうひとつの大切な要因についても触れておく。デシ（1999）は、「有能感は、自分自身の考えで活動できるとき、それが最適の挑戦になるときにもたらされる。ここでは、最適の挑戦というのがキーワードになる。取るに足らないやさしいことができても有能感を感じることはできない。達成に向けて努力する時にのみ有能感を感じることができるのである。」（pp. 88-89）と述べているが、A3課題にまとめるために、「要点を自分なりに考える」という学生の記述や、さらに問2に見られる記述のいくつかには、「主体的な学び」につながる理由が見て取れる。すなわち、「内容を理解していなければまとめることはできないので、自分から学ぼうとした。」「内容をまとめるのに見直したり、考えを深めたりできたので、主体的な学びにつながった。」「自分なりにわかりやすくまとめようと（するため）、“調べなきゃ”となる。」（括弧部分は意味を明確にするため筆者が加筆。以下も同様。）などといった記述にあるように、「自分自身の考えで活動できるとき」や「達成に向けて努力する時」に「有能感を感じることができ」、これが「主体的な学び」につながる重要な要因になっていると考えられる。

第2は、「将来の自分の仕事のためになる」というもので、「保育者になったとき役に立つ」という記述に代表される。

第3は、「学習の定着」に効果があるというものである。学んだことを「A3（課題）としてまとめることでもう一度学習を振り返り、記憶にも定着しやすくなりました。」といった記述に見られるもので、「学んだことが身に付く」というわけである。

次に、問3のパソコン等の機器ではなく手書きで課題を作成することの意義について検討する。学生自身の記述からみてみたい。「自分のオリジナルがつくれるという点から、作成の意欲につながり、ひいては主体的な学びになると思った。」「テーマを決めて、1から自分で作り上げていくことができる（から）。」「自分自身でまとめ方を考えることによって主体的な学びになっている（と思ったから）。」、さらに「パソコンだとどうしても他の人の意見を検索して、それを参考に書いてしまうことが多いが、A3だと自分の考えを書く。」などといった記述が参考になる。特に、最後の記述で、便利なパソコンというIT機器のために、「自分で考える過程」がおろそかになる可能性があることを学生自身も感じていることは重要と考える。デシ（1999）の「人

はみな自己原因性を求めている。つまり、人は自分自身の行動の源泉でありたいと願っている（中略）人には、自分の自律性あるいは自己決定の感覚——ド・シャームが自己原因性と呼んだ感覚——を経験したいという生得的な内発的欲求があると思われる。」（pp. 39-40）という記述にあるように、「自分のオリジナルなものがつくれる。」「一から自分で作り上げていくことができる。」「パソコンだと（中略）、A3だと自分の考えを書く。」といった具合に「自分が行動の源泉になる。」「自己決定ができる。」などの作業が内的欲求を満たし、意欲的な学びにつながると考えられるのである。

問5に関連して、A3課題に継続的に取り組むことの意義についても考察するため、具体的記述を紹介する。「1年生の時に比べ、まとめ方、自分の考えの伝え方が分かり、主体的な学びができるようになった。」「やり遂げることで達成感があり、受け身の学習ではなくなる（から）。」「継続的に続けることは、確実に力になっていると実感しています。」「講義を受けるだけでは受け身な態度になってしまうと思うけど、A3課題があることで、積極的に授業に参加できた（から）。」「回を重ねるごとに完成した後の反省点が出るので、工夫をしようと思った。」「継続して行うことで、まとめ方が工夫できるようになった。」「討論・発表などで振り返りながら取り組むことで、より深く調べたり考えたりしてまとめることができた。」「3年間A3課題をやってきたというのは自分なりに自信になると思う（から）。」「3年になってやっとつかんできた気がします。構想を考え、ある程度考えられるようになりました。」「1年次から継続してA3課題をしたことで、まとめる力や理解力が深まったと思います。」などと継続的取り組みに意義を見出している。

デシ（1999）は、「有能感は、自分自身の考えで活動できるとき、それが最適の挑戦になるときにもたらされる。」（p. 89）と述べているが、A3課題に継続して取り組んだ結果、「3年になってやっとつかんできた気がします。構想を考え、ある程度考えられるようになりました。」という学生の記述の他に、「まとめ方、自分の考えの伝え方が分かり」、「確実に力になっていると実感し」、「まとめる力や理解力が深まり」、「自分なりに自信になる」などという記述からも、A3課題に継続して取り組むことにより学生には有能感がもたらされることがうかがわれる。

以上、(1)～(6-2)の仮説について、自由記述と統計的結果から、一定の支持も認められたが、全体としては、「主体的な学び」を促進するための工夫としてのA3課題には限界が見られることが明らかになった。そのため、今後は「手書きA3課題」の意義を、例えば、「将来の自分の職業（保育・教育職等）に役立つ各種能力を高める」上で意義のある課題であるかどうか、などという別の観点から見直すなどして、授業改善のため、さらに研究を継続していきたい。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、査読の上、きわめて貴重なご指摘や助言・指導をいた

だきました本学教育学部准教授の野崎健太郎博士に対し、こころより感謝いたします。授業において本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々にもお礼を申しあげたいと思います。

■引用文献

- エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト（1999）人を伸ばす力—内発と自律のすすめ—，桜井茂男（監訳），新曜社。
- 中央教育審議会（2012）新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて—生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ—（答申）2012.（www.mext.go.jp > トップ > 政策・審議会 > 審議会情報 > 中央教育審議会）。
- 服部次郎（2014a）保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践(3)—事前指導でのテーマや事後指導での討論に注目し、学生の主体的学びの促進を目指した改訂版「施設調べ」の試み—，梶山女学園大学教育学部紀要，7：187-208。
- 服部次郎（2014b）A3用紙という空間を通じて，梶山女学園大学 FD 委員会活動報告書，14：47-48。
- 服部次郎（2015）保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践のその後の専門教科への影響について—学生の主体的学びの促進を目指した授業での試み—，梶山女学園大学教育学部紀要，8：179-192。
- 服部次郎（2016）保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び（学びの主体性）の促進を目指した授業での試みについて—「手書き A3 課題」を授業に活用することの意義とその効果—，梶山女学園大学教育学部紀要，9：191-203。
- 鷲尾敦（2012）グループ学習の効果をあげるためのグループ作り，高田短期大学紀要，30：50-65。

資料1（記述スペースは削除）

科目（障害児保育）3年前期

授業改善とそのための実践研究に向けたアンケートへの協力依頼

2017年7月14日 服部次郎

問1. 1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役に立ったと思いますか（一番近い番号に○をつけてください）。

5	4	3	2	1
とても役に	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
役に立った	役に立った	いえない	役に立たなかった	役に立たなかった

（5・4に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

問2. A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか。

5	4	3	2	1
とても	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
つながった	つながった	いえない	つながらなかった	つながらなかった

（5・4に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）

問3. 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
	あった	いえない	なかった	なかった

（5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください）

問4. 「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の「主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
	あった	いえない	なかった	なかった

（5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど、具体的に記述してください）

問5. 3年目のこの授業においても、討論・まとめ・発表をして、最後に個人としての「手書きA3課題」に取り組んでもらいました。このように継続的に取り組んだことは、「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
	あった	いえない	なかった	なかった

(5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど，具体的に記述してください)

問6. 今回のA3課題においては，1～2年次とは異なる選択制を導入しました。具体的には，この科目では課題の対象を発表内容のまとめにするか，教材「光とともに」にするか，皆さんに選んでいただくこととしました。

(1) これによってA3課題に取り組みやすくなりましたか。

5	4	3	2	1
とてもなった	ある程度 なった	どちらとも いえない	あまり ならなかった	まったく ならなかった

(5・4に○の場合はその理由／例：どのように効果があったかなど，具体的に記述してください)

(2) 課題の対象の選択制は「主体的な学び」の促進に役立ちましたか。

5	4	3	2	1
とても役に 立った	ある程度役に 立った	どちらとも いえない	あまり役に 立たなかった	まったく役に 立たなかった

(5・4に○の場合はその理由／例：どんな時，どんな形で役立ったかなど，具体的に記述してください)

個人の名前が出ることはありませんので，大学における授業の改善のため，私の研究テーマ「学びの主体性」のため，ご協力いただけるとありがたいです。

資料2. 自由記述の後の番号は資料番号である

問1. 1年次から活用しているA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、この授業における事前学習・授業での学習成果の発表・発表後の事後学習（発表後の成果のまとめの作業）にも役に立つ。

- ・1年のときから多くの事例を見てきて、ただ見るだけではなくA3としてまとめることでもう一度学習を振り返り、記憶にも定着しやすくなりました。施設実習にも活かすことができました。42
- ・今、慣れておく保育者になったとき役に立つ気がする。2
- ・イラストを用いて分かりやすくまとめるという点において、将来保育士、又は幼稚園教諭として働く際に役立つと思うから。7／・保育で大事な絵を描く力が育った。16
- ・限られたスペースに要点を自分なりに考えることでより深い学びにつながった。33
- ・最終的に自分の言葉でまとめることで深い学びになる。22
- ・まとめることで復習にもなり、理解が深まった。28
- ・レジュメと教科書を照らし合わせ、より深く内容が理解できました。27
- ・授業の内容を思い出すことができ、記憶の定着につながった。29
- ・授業で学んだことを自分で工夫してまとめることで、より理解を深めることができた。発表も内容を理解した上でできたので充実していた。39
- ・1年生の頃は、とにかく文と絵を書いていた。しかし、徐々に伝えたい要点と分かりやすいイラストを描くことで読み手のことを考え、見やすいA3を作る力がついたから。5
- ・私はレジュメのA3をまとめたのですが、振り返ってまとめることで、さらに理解が深まったと思ったから。6
- ・ただ授業を受けるだけ、ビデオを見るだけだと、残りにくいですが、まとめのおかげで整理でき、より充実した学びになっていると思います。38

問2. A3用紙による課題に取り組むことは、この授業において自分自身の「主体的な学び」につながったと思いますか。

- ・内容をまとめるのに見直したり、考えを深めたりできたので、主体的な学びにつながった。35
- ・自分なりにわかりやすくまとめようと（するため），“調べなきゃ”となるから。45
- ・分からない語句や内容がでてきたら、A3にまとめることはできません。自ら調べることができると思います。27
- ・内容を理解していなければまとめることはできないので、自分から学ぼうとした。25
- ・今回他教科での課題がとて多く、やらなければならないものの1つとしてA3を認識してしまった。10

問3. 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく手書きで課題を作成することは「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

- ・自分のオリジナルがつくれるという点から、作成の意欲につながり、ひいては主体的な学びになると思った。11
- ・テーマを決めて、1から自分で作り上げていくことができるから。26
- ・自分自身でまとめ方等を考えることによって主体的な学びになっていると思ったから。4
- ・パソコンで行うとコピーする人が出てくるかもしれないが、手書きで行うことで自分ですっきりと取り組もう、という考えを促すと思う。29
- ・パソコンだとどうしても他の人の意見を検索して、それを参考に書いてしまうことが多いが、A3だと自分の考えを書く。31

問4. 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3 課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、学生の主体的な学びを促進するという点で効果があったと思いますか。

- ・よりわかりやすくまとめるためにイラストを使って工夫するのは主体的な学びにつながると思う。42／・キャラクターをかくことで意欲的になれた。21
- ・かわいいキャラクターを使うことでより学ぼうと思えた。26
- ・字だけでは見る方も書く方もあきてしまうので、絵があるだけでもやる気につながります。38／・楽しみながらかくことが出来たと思う。44

問5. 3年目のこの授業においても、討論・まとめ・発表をして、最後に個人としての「手書き A3 課題」に取り組んでもらいました。このように継続的に取り組んできたことは、「学生の主体的な学び」を促進するという点で効果があったと思いますか。

- ・1年生の時に比べ、まとめ方、自分の考えの伝え方が分かり、主体的な学びができるようになった。43
- ・やり遂げることで達成感があり、受け身の学習ではなくなるから。19
- ・継続的に続けることは、確実に力になっていると実感しています。42
- ・3年間 A3 課題をやってきたというのは自分なりに自信になると思うから。30
- ・講義を受けるだけでは受け身な態度になってしまうと思うけど、A3 課題があることで、積極的に授業に参加できたから。35
- ・回を重ねるごとに完成した後の反省点が出るので、工夫をしようと思った。31
- ・継続して行うことで、まとめ方が工夫できるようになった。22
- ・討論・発表などで振り返りながら取り組むことで、より深く調べたり考えたりしてまとめることができた。7
- ・3年になってやっとつかんできた気がします。構想を考え、ある程度考えられるようになりました。38
- ・1年次から継続して A3 課題をしたことで、まとめる力や理解力が深まったと思います。39

問6-1. 今回の A3 課題においては、1～2 年次とは異なる選択制を導入しました。具体的には、この科目では課題の対象を発表内容の求めにするか、教材「光とともに」にするか、皆さんに選んでいただくこととしました。これによって A3 課題に取り組みやすくなりましたか。

- ・好きなものをえらぶことによって、選択肢が嬉しさと、えらんだからやろう！という意欲があがった。18
- ・選択制にすることで、より選んだ課題について積極的に取り組もうという意欲ができました。6
- ・選択することによって自主的なやる気がでる。3
- ・選べるという点から、課題をやらされているという気持ちがなくなった。11
- ・選択肢がある方が、自分で選んだという意識が生まれ、大変だから嫌と思っても、強制されているという感じが少し薄れるから。13

問6-2. 課題の対象の選択制は、「主体的な学び」の促進に役立ちましたか。

- ・(人は誰でも)得意・不得意があるため、どちらか自分のやりやすい方を行うことで「主体的な学び」の促進につながったと思います。30
- ・どちらか自分のやりたいテーマをえらべるということでより意欲的に課題に取り組むことができた。4
- ・選ぶことで、自分にとって興味のある方が、まとめやすい方を学習することができるので、負担が少ない分、やろうという気持ちになる心の余裕が生まれるから。12
- ・自分でえらぶことで、そのえらんだものに対する意欲がわくと思う。44